

編集後記

2年に渡るコロナ禍の中、誰もが厳しい状況下で研究活動を強いられていますが、皆様のお陰で、第5巻となる本誌も無事に発行することができました。ご協力下さいました皆様に、心より御礼申し上げます。

この度、本誌に掲載された論文は、視覚障害児の身体活動とダンスの可能性について考察されたもので、身体活動を通じた人間の健康や幸福の促進を重視し、地域福祉活動への貢献をも追求している本研究科の特徴が表れた研究といえるでしょう。今後の情勢の見通しは未だ立たない状況ですが、創意工夫次第で、この逆境を新たな発見や方法を見出すチャンスに変えることもできるはずで、その可能性を信じたいと思います。

今回で第5巻の発行となる『人間健康研究科論集』は、人間健康研究科設立当初から大学院教育に携わってこられた先生方のご尽力により、2018年に発刊されました。本論集におきまして、第1巻から編集委員を担当され、第4巻では査読委員も務めて下さいました小田伸午教授が、2022年3月をもって退職されます。

小田先生のご研究は、先生がトレーニング・コーチや監督としてご活躍されていたラグビー界のみならず、北京オリンピックで金メダルを獲得した女子ソフトボールチームの指導にも活かされるなど、競技の枠を超えてスポーツの現場で広く支持されました。文理融合型の先駆的なご研究をされ、誰にでも真摯に対応されていた小田先生の元には、学部・大学院を問わず多くの学生が参集し、本研究科では先生の研究室は社会人を含め15名の大学院生を輩出されました。本研究科およびスポーツ界への長年に渡る多大なご貢献に深く感謝申し上げます。4月以降は大変淋しくなりますが、その後も折に触れ、ご助言・ご指導を頂けましたら幸いに存じます。本当に有難うございました。

志岐幸子（編集委員）